

プロジェクト研究
アフリカ農村開発手法の作成
実施編

第1年次報告書

別冊 西アフリカにおける稲作農業への協力についての研究

平成15年3月

国際協力事業団

農調計

JR

03-09

序 文

西アフリカでは近年、都市部を中心に主食としてのコメの消費量が激増しています。その一方で、同地域の多くの国々では、コメの需要増加に対応しうる供給ポテンシャルを持ちながら、年間 10 億ドルに上る輸入米に押され、国産米の供給を拡大する機会を逃しています。増加するコメ需要に国産米で対応することは、農家所得の向上や農村部での雇用創出、また外貨節約の意味からも、西アフリカ諸国にとって緊急の課題となっています。そのためには、流通機構の整備とともに、地場資源の有効活用を可能とする適正技術の研究開発と普及の拡充により、生産量の確保と生産コストの低減を図ることが不可欠ですが、それらの諸国では緊縮財政の下、こうした施策はいずれも実施困難な状況にあります。

本プロジェクト研究は、平成 14 年度に実施したプロジェクト研究「アフリカ農村開発手法の作成（実施編）」の一部として行ったもので、その目的は、西アフリカにおける稲作技術の研究および普及の現状を明らかにし、その成果を踏まえて、西アフリカの同分野において日本が果たしうる国際協力の方向を提案することです。そのために、西アフリカの稲作農業に精通する専門家（JICA、JBIC、JIRCAS、国際機関、大学、ジャーナリズム、NGO 関係者など）にお集まりいただいて研究会を開催するとともに、イタリア（国連食糧農業機関）、コートジボアールおよびギニアの 3 カ国で現地調査を行いました。

なお、本調査の調査研究および取りまとめは（財）国際開発センターが担当し、要約、第 2 章および第 7 章は高瀬国雄氏、第 1 章および第 3 章は江本里子氏、第 4 章は若月利之氏、第 5 章および第 6 章は若月利之氏と江本里子氏がそれぞれ主として執筆しました。

本書が事業団職員のみならず、広くアフリカにおける農業・農村開発協力に従事する関係各位の業務の一助となることを願っております。

平成 15 年 3 月

国際協力事業団
農林水産開発調査部長
西牧 隆壯

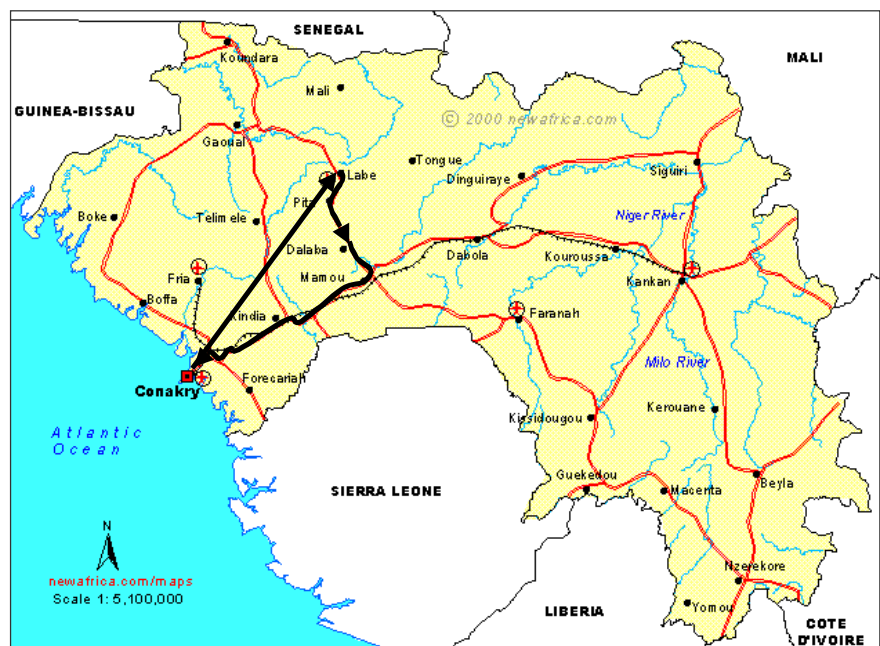
調査対象地域位置図



コートジボアール：2002年8月14日～23日



ギニア：2002年8月25日～28日



写 真（1～10 はコートジボアール、11～12 はギニアで撮影）



写真1 Gagnoa 郊外の天水畑地稲作地



写真2 Bouake 北部の天水畑地稲作地
(NERICA-CBSS 参加農家)



写真3 Lokapli 流域 (Bouake 郊外) 灌漑稲作地



写真4 無償資金協力で整備された Lokapli ダム



写真5 WFP/PBF の灌漑稲作地 (Foro-Foro)



写真6 WFP/PBF の灌漑稲作地 (Soungourou)

写 真（1～10 はコートジボアール、11～12 はギニアで撮影）



写真7 Anongblinの灌漑稲作地
(JICA-PASEAのモデルサイト)



写真8 Anongblinの農家が購入したKR2耕耘機



写真9 PNRのNERICA種子生産圃場
(Yamoussoukro 郊外)



写真10 WARDAのNERICA展示圃場



写真11 Fouta Djallonの天水畑地稲作地
(Dalaba から Tolo へ向う途中)



写真12 Tolo 付近の天水低地稲作地

目 次

	頁
調査対象地域位置図.....	i
写真.....	ii
目次.....	vii
要約.....	ix
略語表.....	xviii
第1章 調査の目的、内容および工程	1
1-1 調査の背景および目的.....	1
1-2 調査の内容および進め方.....	1
1-3 国内研究会メンバー	2
1-4 調査団の構成	3
1-5 調査の工程.....	3
第2章 西アフリカの稲作農業を取り巻く状況.....	5
2-1 アフリカ開発40年の開発戦略と問題点.....	5
2-2 主要ドナーのアフリカ農村開発戦略.....	6
2-3 途上国における慢性的栄養不足人口の推移	7
2-4 「ヨハネスブルグ持続的開発サミット」の成果と課題.....	8
2-5 アフリカ主要食料生産国の分布	9
2-6 ネリカ米の開発と現状.....	10
2-7 アフリカのコメ・イニシアティブ（ARI）	11
2-8 食料生産と肥料投入量の世界的比較.....	12
2-9 コメ生産の歴史的背景.....	13
第3章 西アフリカにおけるコメ需給の現状と見通し	14
3-1 世界コメ市場の特徴.....	14
3-2 コメの生産・輸出に対する補助金.....	18
3-3 西アフリカのコメ需給の動向	22
3-4 西アフリカのコメ需給の見通し	25
第4章 西アフリカにおける稲作の動向と技術協力の方向.....	27
4-1 西アフリカの稲作生態.....	27
4-2 西アフリカの稲作農業開発と環境保全戦略	38
4-3 西アフリカにおける日本を中心とする稲作農業研究・普及協力の現状.....	42
第5章 事例1：コートジボアールにおける稲作農業	53
5-1 政治・経済状況と農業.....	53
5-2 コメ需給の推移	53
5-3 稲作農業関連行政と農業支援サービス.....	55
5-4 稲作農業の現状と技術・環境的問題点.....	58
5-5 稲作農業における国際協力.....	63
5-6 提言：稲作農業への協力の方向性.....	66
第6章 事例2：ギニアにおける稲作農業	68
6-1 政治・経済状況と農業.....	68
6-2 コメ需給の推移	68
6-3 稲作農業関連行政と農業支援サービス.....	69

6-4	稲作農業の現状と技術・環境的問題点.....	70
6-5	稲作農業における国際協力.....	71
6-6	提言：稲作農業への協力の方向性.....	72
第7章	西アフリカ稲作農業協力への提言.....	73
7-1	輸出用作物重視から食料生産重視への政策転換.....	73
7-2	コメの比較優位と問題点.....	73
7-3	西アフリカ稲作農業の中・長期視点.....	74
7-4	「第2次ODA改革懇談会」最終報告の実践.....	75
7-5	日本の西アフリカ稲作農業協力戦略と段階的取り組み.....	76
付録		
1.	主な面談者.....	付-1
2.	IFDCのJICAへの技術協力案.....	付-4
3.	コートジボアール共和国の社会経済情勢.....	付-10
4.	ギニア共和国の社会経済情勢.....	付-12